

09 丹沢クリーンハイク報告集

5月30日(土)～31日(日)

神奈川県勤労者山岳連盟

大倉の開会式



清掃・二ノ塔コース

水質調査(塔ノ岳水場)



登山道整備(岳ノ台と菩提峠間)

【後援】神奈川県、丹沢大山クリーンピア21

【協賛】丹沢自然保護協会、丹沢ブナ党、丹沢ドン会、丹沢ゴミ調査会、秦野の自然と環境を守る連絡会、伊勢原の自然と環境を守る連絡会、尾瀬の自然を守る山ゆりの会、相模川キャンピングインシボジウム、グリーントフ(神奈川県自然観察指導員連絡会)、神奈川の自然と環境を守る連絡会(神奈川グリーンネット)、神奈川大学ワンダーフォーゲル部、NPOみろく山の会(順不同)

実行委員長あいさつ

高橋 勇三(藤沢山の会)

5月31日(日)に神奈川県連主催の統一「09丹沢クリーンハイク」が行われました。

クリーンハイクの当日は、不安定な天気、場所によっては一時雨が振った所もあり、一般の方も参加しておりますので心配しましたが、無事計画通り終了しました。

清掃は、大山及び丹沢山等表丹沢一帯の14のコースで行いました。

又、清掃以外の取り組みでは「登山道整備」を県職員の指導でヤビツ峠から岳ノ台間の登山道を整備・補修をし歩きやすい登山道にして、大いなる成果をあげました。

前日の30日(土)には水無本谷の沢や水場等14ヶ所から水質調査の採水を行いました。

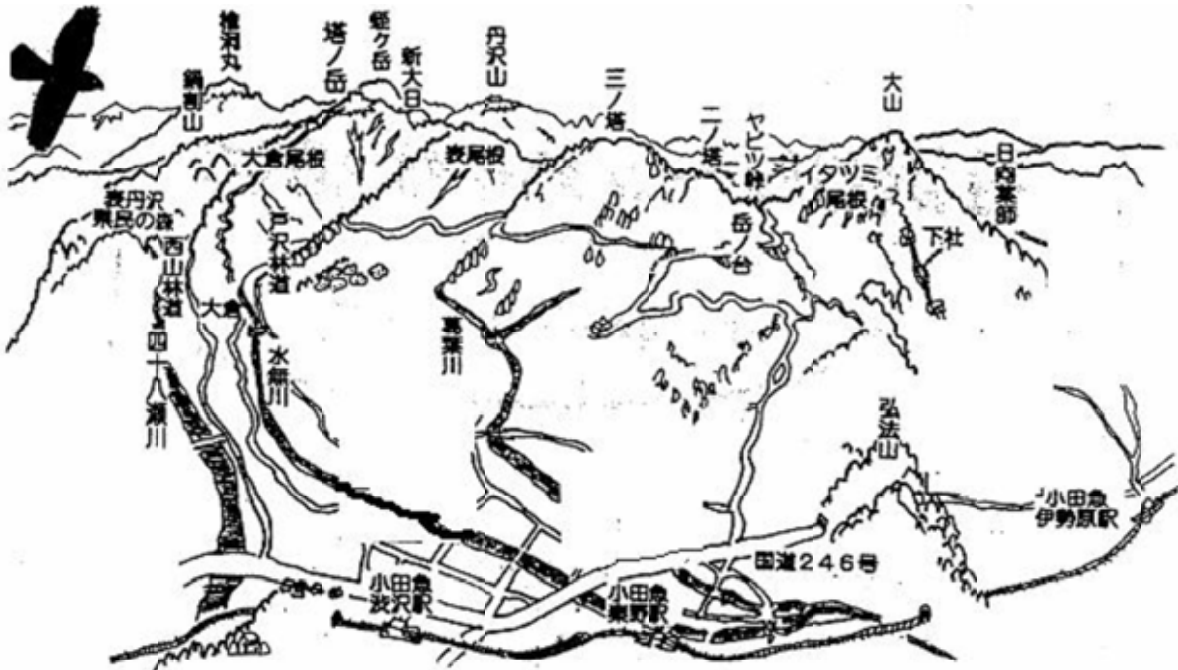
清掃や水質の各結果は、集計表をご覧ください。

私たちは、この素晴らしい丹沢を守り、丹沢の貴重な自然を後世に引き継ぐためにも、これからも幅広く行政とも協力しながら皆さんと共に自然保護活動に取り組んでいきます。

このクリーンハイクに参加されました皆さん、実施に尽力していただきました実行委員、遭難防止に協力いただきました県連救助隊の皆さんご苦労様でした。あらためて感謝します。

また、後援、協力いただきました行政及び関係機関の各位に厚く御礼申し上げます。

そして、このクリーンハイクが丹沢の自然保護活動の啓発に繋がることを祈念しています。



2009年丹沢クリーンハイク報告集 目次

p 1	表紙
p 2	実行委員長あいさつ
p 3	各コース担当会のゴミ集計と参加人数 水質調査参加一覧 / 登山道整備参加一覧
p 4	2009丹沢水質調査結果報告
p 5	これまでのゴミ集計一覧
p 7	参加者の感想文とスナップ写真 藤沢山の会 / 横浜こぶしの会 p 9 / みずなら山の会 p 9 / 川崎柴笛クラブ p 11

	小田原ナーゲル山の会 p 12
	相模アルパインクラブ p 13
	地平線の会 / 山ブキの会 / p 14
	川崎ハイキングクラブ p 16
	横浜ハイキングクラブ p 17
p 18	山ゆりの会 感想と写真
p 20	スナップ写真
p 21	参加者一覧
p 22	加盟団体一覧 / 奥付

2009年クリーンハイク各コース担当会のゴミ集計と参加人数

コース	清掃場所	下山口	担当会	リーダー	可燃物	不燃物	合計	人員	一般
A. 大倉高原	大倉～大倉高原山の家～堀山	大倉	横浜HC	関根さち子		6.55	6.55	31	
			藤沢山の会	角田正夫		38.90	38.90	31	2
			こまくさHC	青井定生		2.40	2.40	4	
			雪童	樋浦美弥		2.00	2.00	3	3
B. 大倉尾根	堀山～花立	大倉	カモの会	武田優子	0.15	2.35	2.50	9	2
C. 大倉尾根	花立～塔ノ岳	大倉	AC横浜	市川祐介		1.15	1.15	21	5
D. 丹沢山	塔ノ岳～丹沢山	大倉	地平線	鈴木澄雄		14.50	14.50	5	
			山ブキ	青柳百合子				1	
E. 鍋割山	鍋割山	大倉	ナーゲル	高橋和正	0.65	8.65	9.30	17	
F. 新大日	戸沢出合～新大日	大倉	横浜こぶし	上野昭典	0.15	9.90	10.05	7	
			みずなら	千葉雅子		6.60	6.60	17	
G. 戸川林道	林道とキャンプ場	大倉	川崎芳山	望月勝司	0.10	6.30	6.40	13	
くぬぎ山	くぬぎ山	大倉	山ゆり	草野正昭		28.30	28.30	1	13
I. 表尾根	ヤビツ峠-二ノ塔	大倉	柴笛	佐藤三郎		3.50	3.50	6	
K. 岳ノ台	岳ノ台	ヤビツ峠	川崎HC	八島彰子	3.00	27.20	30.20	9	
			緑星	岡田紀子	1.50	4.00	5.50	6	2
M. 大山下社	下社～大山～ヤビツ	ヤビツ峠	川崎HC	岩佐キミ子	1.00	12.00	13.00	9	3
			やま++	池田裕治	0.60	2.20	2.80	3	2
N. 日向薬師～大山	日向薬師～見晴台～大山～ヤビツ		川崎HC	吉岡 貴	2.50	5.00	7.50	11	
			神大WV	渡辺朱美					4
			関東学院WV	一之瀬					4
ヤビツ峠建物付近				本部要員	13.50		13.50		
蓑毛-ヤビツ峠	蓑毛-大山-ヤビツ	ヤビツ峠		小谷		2.00	2.00		1
合計					23.15	183.50	206.65	204	41

総参加者 = 345名

実行委員37名 + 救助隊13名 + 水質調査23名 + 登山道整備24名 + 県職員3名 + 一般参加者41名 + 連盟会員204名

5月31日(日) 登山道整備と参加者数

場所	担当会と行政	リーダー	参加者
岳ノ台と菩提峠間	神奈川県/パークレンジャー		3
	相模アルパインクラブ	大橋チエ子	16
	やま++	柴田勇作	3
	藤沢山の会	丸山/角田	2
	カモの会	志村杏子	2
	横浜こぶしの会	小町博志	1

5月30日(土) 水質調査担当会と参加者数

場 所	担当会	参加人数	場 所	担当会	参加人数
水無本谷(出合い)	雪童山の会	5人	一の沢(ツメ)	地平線の会	2人
水無本谷(ツメ)			一の沢(取水口)		
源次郎(出合い)	みずなら山の会	2人	大倉高原山の家	横浜ハイキングクラブ	4人
源次郎(ツメ)			塔ノ岳の水場		
勘七の沢(出合い)	アルパインクラブ横浜	3人	大山春岳沢の水場	藤沢山の会	4人
勘七の沢(ツメ)			ゴマ屋敷水場		
後沢乗越の水場(沢)	横浜ハイキングクラブ	3人	葛葉の泉		
			(竜神の泉流水)		

2009年丹沢水質調査報告

神奈川県連盟自然保護委員会

5月30日(土)に実施しました丹沢水質調査は、曇りときどき雨のあいにくの天候でしたが、無事に終わることができました。ご協力いただいた会の皆様、有難うございました。

今回は数日続いた雨の影響か、沢(表流水)ではツメを除いてほとんど大腸菌が検出されました。湧水でも、大山春岳沢水場と竜神の泉脇の流水で大腸菌が検出されているので、水場の整備が必要かもしれません。

また、今回は少し色がついている試料があったので、大腸菌のほかに色度も調べてみました。水道水の場合は、一応水質基準が色度5度以下となっています。これから梅雨に入ると山の場合は、よりいろいろな有機物が沢に流れ込むことも予想されますので、基準値より大きい値の出ている一の沢は注意が必要です。

これからもこの調査を続けて、丹沢の水を見守っていきたいと思います。

来年の水質調査にもぜひ、ご協力を宜しくお願いいたします。

採水日：2009年5月30日(土) 天気：曇りときどき雨(前前日から雨)

場所	大腸菌	色度	場所	大腸菌	色度
水無本谷(出合い)	陽性	1.0	一の沢(ツメ)	陽性	11.5
水無本谷(ツメ)	陰性	0.0	一の沢(取水口)	陽性	6.5
源次郎(出合い)	陽性	1.0	大倉高原山の家	陽性	6.0
源次郎(ツメ)	陰性	0.5	塔ノ岳の水場	陰性	0.0
勘七の沢(出合い)	陽性	1.0	大山春岳沢の水場	陽性	0.0
勘七の沢(ツメ)	陽性	1.5	ゴマ屋敷水場	陰性	0.0
後沢乗越の水場(沢)	陽性	2.5	葛葉の泉	陰性	0.0
			(竜神の泉流水)	陽性	2.5

計量の対象 = 大腸菌 / 100ml : (財)新日本検定協会

色度: 共立デジタルパックテスト(度)

丹沢山城水質調査結果(過去18年間の推移)

地図	A	B	C	D	I	J			K	P	E	F	L	M	N	O
採水場所 年月日	水無本谷出合	水無本谷ツメ	源次郎沢出合	源次郎沢ツメ	勘七の沢出合	勘七の沢ツメ	一の沢取水口	一の沢ツメ	大倉高原山の家	後沢乗越水場	竜神の泉*湧水	竜神の泉*流水	塔ノ岳水場	葛葉の泉	春岳沢水場	ゴマ屋敷水場
2009/5/30	●	○	●	○	●	●	●	●	●	●	-	●	○	○	●	○
2008/5/24	○	○	○	○	●	-	-	-	●	○	○	-	○	○	○	○
07/5/26	●	○	●	○	●	●	-	-	●	-	○	-	○	○	○	○
06/5/27	●	○	●	●	●	●	-	-	●	○	○	-	○	○	○	○
05/5/28	●	○	○	-	○	○	-	-	○	●	○	-	○	●	●	○
04/5/29	● 2	● 1	● 9	● 1	● 5	○	戸沢 出合	戸沢 ツメ	● 1	● 1	○	-	● 51	○	○	○
03/5/24	● 9	● 2	● 11	● 2	● 4	○	○	○	● 3	○	○	-	○	○	○	● 1
02/5/25	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	-	○	○	●	○
01/5/26	●	○	○	○	●	●	●	●	●	-	○	-	○	○	○	○
00/5/27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	-	●	●	-	●
99/5/29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	-	○	-	-	○
98/5/30	●	●	●	●	●	●	-	●	●	●	-	-	●	-	-	-
97/5/24	●	●	●	●	●	●	-	●	●	●	-	-	○	-	-	-
96/06	●	●	●	○	-	-	-	○	●	●	-	-	○	-	-	-
95/6/04	●	○	○	○	●	●	○	○	●	●	-	-	○	-	-	-
94/6/05	●	-	●	○	●	○	○	○	●	●	○	●	○	-	-	○
93/6/13	-	-	●	-	●	-	○	-	-	-	○	●	-	-	-	○
92/6/14	-	-	●	-	●	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-
91/6/09	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	○	-

←今年

《不検出(陰性)○、検出(陽性)●、調査無し-》 ◇計量の方法=上水試験方法
 ◇計量の対象=大腸菌/100ml(2005~2009年)、大腸菌群数/1ml(2003~04年)
 大腸菌群/50ml(1991~2002年)
 ◇計量依頼先=(財)新日本検定協会(1995-2009年)(株)日本環境クリエイト(1991-4年)

1986年～2009年のゴミ集計

年	1986	89	90	91	92	93	94	95	96	97	1998	1999																	
月	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5																	
日	8	4	3	9	14	13	12	28	26	25	31	30																	
	可燃物	不燃物		可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計														
戸沢林道				16	23	39	118	319	436	(+大倉尾根)	245			133	26	27	53	27	196	223	280	14	294			202	332	534	
大倉尾根				39	52	92				(+三ノ塔)	239			25	140	165	16	171	187							19	128	147	
西山林道														16	35	51	70	284	353										
県民の森				142	543	685														21	145	166				6.8	82	89	
塔ノ岳				109	81	189				(オバケ沢)	358	(オバケ沢)	292																
丹沢山														20	130	150													
大山														8.8	61	69	23	60	83	34	89	123	34	100	134	41	246	287	
日向薬師																													
十六丁目																													
岳ノ台														5.2	2	7.2	27	103	130	9	34	43	42	75.9	118	92	31	122	
二ノ塔							0	170	170					102	6.9	218	224	0	619	619	6	341	347	17	1015	1032	10	140	150
三ノ塔				44	77	121					120				2	54	56	8	192	200	15	54	69	8.5	28	36.5	6	11	17
新大日				33	13	46								5	77	82	2.2	6.5	67	0.5	50	51	2.6	302	305	22	147	169	
鍋割山																													
くぬぎ山																													
ヤビツ峠														8	87	95													
その他						45			161																				
ゴミ量	22袋	23袋	200	326	1217.15		822		722		778		953				1905.6		1098.3						1624.5		1513.1		
参加者(名)	84	134	84	487	169	219	248	199	372	243	322	362																	
	9団体	みろく山の会32名	HAT-Jと共催	NO2調査開始 自然保護団体の参加 前夜祭、シンポジウムに大沢氏(丹沢自然保護協会)、梶谷氏(丹沢プナ党)参加	丹沢大山 クリンピア21に加盟 前夜祭、シンポジウムに梶谷氏・鈴木澄雄氏(丹沢プナ党)参加 プナ観察会 大学WV参加(神奈川県)	森の集会と共催 前夜祭、シンポジウムに白鳥氏(丹沢自然保護協会)和田氏(森の集会事務局)参加 プナ観察会 大学・高校WV参加(神奈川県)	前夜祭、シンポジウムに奥野氏(丹沢自然保護協会)参加 プナ観察会 報告書作成	朝日新聞に掲載し、過去最高の参加(内一般143名) 報告書作成 行政との話し合い(96年11月)	行政との話し合い(97年2月) クリーンハイク実施後の行政への提案(山小屋の廃材、ゴミ処理の具体策を要求) 大日小屋の集中清掃の実施(ミニクリーンハイク)10月19日 ゴミ回収のため県のヘリが飛んだ	大山、表尾根コースに集中二ノ塔廃材は回収がほぼ終了した 大学、高校生の参加が増えている	新大日、二ノ塔の集中清掃を実施																		

2000			2001			2002			2003			2004			2005			2006			2007			2008			2009			総計	年			
5			5			5			5			5			5			5			5			5			月							
28			27			27			29			30			29			28			27			25			31				日			
可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計	可燃物	不燃物	計					
28	179	207	90	215	305							0	7.9	7.9	17	23	40	15	16	31	2	0.2	2.5	10	41	51	0.1	6.3	6.4	2607	戸沢林道			
74	234	308	33	418	451	60	152	212	10	73	83	25	217	243	28	161	189	23	104	127	16	68	84				0.2	52	52	2537	大倉尾根			
																	0							2.7	15	18				888	西山林道			
4.5	6	11	10	40	50							7	13	21	14	19	33	14	80	94										938	県民の森			
																	0	1	14	15	5	31	36				1.2	1.2	891	塔ノ岳				
														6.5	26	32	15	38	53	2	26	28				15	15	251	丹沢山					
12	21	33	22	56	78	57	152	209	84	139	222	25	123	149			0				11	66	77				2	14	16	1479	大山			
									0	29	29	2	6	8			0				2	5.1	7.5				3	5	8	52	日向薬師			
									29	339	368						0													368	十六丁目			
			54	43	97	29	41	70	18	71	90	39	71	110			0				16	108	124				5	31	36	947	岳ノ台			
						51	80	131	13	29	42	16	10	26	5	3	8	3	6	9	2	18	20				4	4	2883	二ノ塔				
						4	18	22	11	58	68	12	18	30	35	48	83	9	6	15	9	47	56							978	三ノ塔			
			45	100	145	14	105	145	5	50	56	6	36	42	9.5	25	34				4	56	60				0.2	17	17	1666	新大日			
														4	9	13	7	6	13	1	4	5					0.7	8.7	9	40	鍋割山			
														3	6	9	14	9	23	8	16	23	9.4	6.9	16		28	28	126	くぬぎ山				
16	16	31	6.2		6.2	0	78	78	0	40	40						0										14	2	16	349	ヤビツ峠			
			49	155	204							4	36	40																505	その他			
589.5			1405.5			871.5			1107.2			675.7			441			379			523.6			84.8			207			17505	ゴミ量			
178			254			351			353			348			380			253			400			85			345				参加者			
雨のため規模を縮小、林道を中心に清掃を実施した 新大日、二ノ塔の集中登山を実施(みるく山の会と共催)			雨のため規模を縮小、林道を中心に清掃を実施																															kg以下は四捨五入

参加各会の感想及び写真

藤沢山の会 大倉～堀山コース(A)
 登山道整備/前夜祭

参加者：総合CL角田正

1班 CL西口浩、SL佐々木愛、新井、清水、福土、中村光、竹内、中村勝

2班 CL橋本、SL加藤、池田、内田、高木、角田淑、坂井

3班 CL藤富、SL渡辺一、木村、高居、安藤、川村勲、矢野、高橋俊(一般)

4班 CL川村富、SL高部、太田、阿部、野口、平山重、高橋弘(一般)

(記録)西口文、(大倉)高橋勇、萩原、渡邊和、(見晴茶屋)植田

登山道整備：丸山 水質検査：池田、木村、他1名
 会員延べ参加者数 男20名、女17名、合計37名

リーダー所感 角田 正夫

雨が心配で、見晴小屋に着いた時はどうしようかと迷ったが、幸い雨も止み、駒止小屋まで登ることができました。ゴミは登山道にはあまり無いのですが、一歩藪の中に踏み込むと、有るわ有るわ。自然保護運動の一つとして、ゴミを山から一掃するには、まだまだ時間がかかりそうです。今回多くの会員の参加をいただき、また何人ものスタッフの方々の陰の力の支えの中で、クリーンハイクが行われ、本当によかったです。ありがとうございました。



参加者の感想 1班 中村 勝一

空模様が少し心配されましたが、大倉バス停そばのクリーンハイクの旗のもと33名の会員が集合する。開会式のあと、4班に分かれ大倉尾根へ向う。登山道にゴミは殆ど見当らず、大半のゴミは道を外れた所から集めてきたように思います。少し降雨もあったこともあり、途中から下山。大倉に戻りゴミの計量報告などのあと閉会となった。

丹沢がいつまでも美しい山であってほしいという多くの会員の想いを強く感じました。参加された会員の皆様、本当にお疲れ様でした。多くの会員の方々と交流ができ、有意義な山行に感謝しております。



参加者の感想 2班 高木 高雄

大倉バス停横に集合し軍手、ハサミ、ごみ袋、参加記念のバンダナを配られ、山蛭等注意事項の説明の後、1班から4班まで班ごとに堀山の家まで、大倉尾根の清掃登山スタートする。

登山道にはほとんどゴミが無く大倉高原山の家からは登山道より少し外れた所を歩いた、それでも焼アミ1枚拾ったぐらいでした。見晴小屋で天候が悪くなって来ているのでこの先どうするか指示待ちで、小屋の中でコーヒーを戴き休ませてもらった。

堀山を止め、駒止小屋までと決まったので出発する。一本松の手前から錆付いた缶や土に埋まったピン類や欠けらが有り駒止小屋に着く頃はかなり重くなった。下山中ごみ袋に穴が空きピンが顔を出して来ているので、袋が体に触れないよう注意しながら下りた。

下山後計量が有り色々な会の中で藤沢山の会が一番多く回収したと聞き少し嬉しく思いました。会全員が回収したのは38.9kgとか。大倉尾根にはゴミは無いと思っていたが、まだまだ登山道から外れたり、小屋の近辺には昔のゴミが土の中に眠って居るようです。これからは場所を集中してやるのも一つの方法かも。



参加者の感想 3班 川村 勲

クリーンハイク参加は今度で2回目です。ゴミが少ないのは、昨年の大山の時と同じでした。登山者のマナーの向上に私達のクリーンハイクが少しでも役立っていると感じています。しかし登山道はずれるとゴ

ミが多いのは、まだ道半ばの感じです。クリーンハイクの継続が大切だと思います。



前夜祭と登山道整備の感想 丸山 久直

県連主催の丹沢クリーンハイクには何回か参加してきたが、今まではゴミのない登山道での宝探しだけだったので、今年は前夜祭と登山道整備に参加してみた。

前夜祭ばかりか見晴茶屋での宿泊も初めてだったが、一般営業の山小屋に劣らない設備とボランティアスタッフのもてなしで、快適な一夜を過ごすことができた。食事はカレーであったが、味や量だけでなく、副食だけでも十分な夕食となるほどであった。また、寝具も申し分なかった。

食事を摂りながらの参加者全員の自己紹介や熟練山小屋の武勇伝、恒例の合唱等も、一般の山小屋にはない独特の雰囲気を感じ出していた。



登山道整備には発足2年足らずの神奈川県パークレンジャー3名全員が参加し、彼らの懇切丁寧な指導のおかげで初心者でも全く困らなかった。

区域はヤビツ峠と菩提峠の間にある岳ノ台周辺であったが、こちらもヤビツ峠は数十回来た割には、今まで全く足を踏み入れたことがなかった。

参加者は県連渡辺会長以下クリーンハイクの実行委員数名以外はほとんどが相模アルパイン会員で、相模会員だけで2班を編成し、その他合計で1班の編成と、偏った構成となったのが少し残念な感じがした。特に藤沢からの参加者1名はさびしい限りであった。

作業内容はスコップ、土嚢、ハンマー、ノコギリを使っての水きり、ステップの補修が主なものであったが、いつもの登山では邪魔に感じてきた階段が、安全登山や登山道の荒廃防止にはなくてはならないものだと理解でき、今後の登山では見る目を変えなくてはならないと痛感させられた。

こういう観点からも、もっと多くの登山者に経験してもらいたい、とても為になる機会のひとつである。



横浜こぶしの会 新大日コース(F)

- ・報告者名(CL上野(記)、SL前田、他5名)
- ・本部(三上・小町)
- ・クリーンハイク参加者 計9名
- ・大まかなコースタイム(大倉8:42 新茅山荘10:02 戸沢10:21、10:46 作治小屋11:05 新茅山荘11:25 大倉12:41)
- ・ヒル情報:新茅山荘の前で休んでいるとヒルにやられてしまった。ちょっとした油断が痛い目を見ると言う事でしょうか。
- ・天気(曇り時々小雨)
- ・行動の記録

当初予定していた新大日コースは途中で雨により戸沢までとし撤退した。本部よりの指示により小屋の裏を重点的に清掃して下さいとの連絡を受け、作治小屋及び新茅山荘の裏の斜面の清掃を実施した。感想としては小屋裏の古いカンの多さにはビックリである。相変わらず埋めているのか気になる。県は指導しているのか気になる場所である。

今年も雨に降られ去年に引き続き撤退した事は寂しい限りである。又、去年比較して横浜こぶしの会の参加人数が半減して申し訳御座いません。又来年も宜しくお願いします。

**みずなら山の会**

21年度クリーンハイクに参加して

平成21年5月31日丹沢クリーンハイクが実施された。その名の通りハイキング気分に参加。前日の雨を引きずっても曇りならば良いのになって思っていたら、降水確率10%と聞き一安心。

僕ちゃんは、水質検査のサンプル取り(塔ノ岳に強制参加)と見晴小屋の前夜祭にも参加。ご苦労様でした！しかし、山屋は何でノンベ~が多いのか?って、そんなこたぁ関係ないね。とにかく飲んで食って歌って楽しい前夜祭だった。

参加費¥3,500 夕・朝飯付。夕飯は焼肉・鳥から揚げ・カレーで腹パン状態。死ぬほど食った！明るい夕刻

からのドンちゃん騒ぎの果てに9時イビキ合戦開始。早いもん勝だ！とりあえず勝ったんだけど、夜中に目が覚めてまだ3時だった。もう酒ないし・・・チクショ~。。。

気が付いたら朝だった！さあ今日もガンバ~。って思ったら頭痛え~！

そんなこんなで7時大倉に下山、みずならの仲間と合流。みなさん元気そ~。素直に昨日の自己反省。僕ちゃんにメンゴ(*´`*)o

開策新道 木の又新道 新大日 政次郎尾根とゴミを集めてきた。まじめにやったんだけど、ゴミが落ちていない。マナーが良くなったのか?成果は18人で6.6Kgだった。え~っと一人に換算すると。。。何計算してる?難しい事は考えないように!参加して久しぶりにまじめにやったんだから良いってことよ!あんまりゴミが無いので見つけると何故か嬉しい!ゴミ採ったド~。登山道から外れて拾い集めるのはあたりまえ、ホジッテも取れないゴミは地中に埋めちゃった!

クリーンハイクに毎回感謝することがある。知り合いとの再開が果たせる良い機会です。こんな同窓会的な機会は他には無いのではないかと思う。クリーンハイク実行委員の皆様には感謝しています(ホント)。

それと3百人弱の人が集合した大イベントであったので、故障者も出たようだった。股関節を痛めた人1名。登山会員外で頭部裂傷1名。皆様今後とも安全登山に配慮して楽しい登山を目指しましょう!

2009/6/1 みずなら 関記

09クリーンハイクに参加して

「みずなら山の会」森 敏雄

ゴミ拾いしながらでも山歩きが楽しめるかと思ったが、甘くはなかった。清掃登山の途中で曇り空から雨になり、蒸し暑さと山ビルの恐怖?で二重苦になる。苦しい登りで順番に歌を歌わされたのには驚いた!これも息継ぎの訓練?だと。「みずなら山の会」は体力だけでなく歌唱力も必要である。(音痴と爆笑されました)登山道にはマナーが良くなったのか、ゴミも金目(かねめ)の物(当たり前)も落ちていない!それでも休憩適地には食品袋やアルミホイールの切れ端などは散乱している。表面には落ちていないが「ゴミはひよっとしたら埋めたのか?」などとハイカーの品格を疑ってしまうくらいゴミは少ない。しかしゴミも悪い事ばかりではない。踏み跡もはっきりしないあやふやな山道などにゴミが落ちてると「確かに人が通ったんだ」と不安感から安心感に変わる。残念な事として、書策小屋は閉鎖され中は荒れ放題でまさにゴミ屋敷であった。所有者が責任をもって整理できないのなら有志で何とかならないものだろうか?クリーンハイクは丹沢の一部分で実施しているが、全山域を対象にしてこそ、お祭りからイベントに変わると思うのでその時が来る事を期待します。実行委員の関係者に感謝し、今後も参加する事と「残すのは足跡だけ」を実践します。



真を撮り、小屋周辺のゴミを集めて帰路へ。一般登山者も多い表尾根はよく目を凝らすとたくさんのゴミが落ちています。キャンディーの包み紙、ビニール類、タバコの吸殻、ペットボトルetc...なかでも登山道を一步中に入るとたくさんの空き缶が捨てられていました。けしからんなぁ・・・。登りでお疲れ気味だっ

みずなら山の会 村上早苗

日時：09年5月31日（日）

会参加人数：17名（男性 9名、女性 8名）

集めたごみ；不燃ごみ：10袋 6.6kg

前日からバリエーションや沢で丹沢入りし、戸沢にて大宴会を催し士気を高めた上でクリーンハイクに臨む予定だったわが会ですが、週の後半から降り続いた雨がきつと「飲みすぎは良くないよ～」と嘯いたのでしよう、前泊中止&当日朝集合に予定変更になったのでした。

当日、渋沢に向かう電車で差し込む太陽の光。「あ、晴れるかも・・・」久しぶりに感じる日の暖かさです。大倉に集合して軍手・ゴミ袋とパンダナを受け取りいざ戸沢へ。全員集合し本日の予定を確認、役のある方はそれぞれの任務に、他は一団で書策新道から木の又新道経由で木の又大日を目指し意気揚々と出発。ヒル対策もバッチリです。とはいえ山をキレイにするのが今回の目的、ゴミを探しながら登るのですがなかなか見つからない・・・みつけたのはとびきり大きなアオダイショウ、そして鹿の骨・・・日差しも風もなく、高い湿度に汗をかきながら上を目指します。マツタリ感を打破したのは姫さまのお歌、皆で順番に童謡や山の歌をワンフレーズずつ歌います。少なくとも気持ちは中学生より若いでしょう～たぶん今時の小学生でも合唱しながらハイキングはしないでしょう・・・イイナア、こういうのって。（自分の番が回ってきたときはちょっと恥ずかしかったけど・・・）。さて、無線の情報によると大山やすぐ近くの鍋割で雨が降り出したとのこと。午後から崩れる予報でしたが早くも上空は重そうな雲が・・・いつ降り出してもおかしくないなと思っていたら案の定ザザザッ。来た！急いでカッパを着、Sさんの喝声で気合を入れなおして歩を進めます。靄にかすむ幻想的な景色、色鮮やかな山ツツジに見とれているうちにいつのまにか木の又小屋前に着きました。若干遅れをとっていたT村さんも到着し皆でお昼。上に着いたら雨もあがってくれて、持参した缶ビール、明らかにみんなに配る分を想定したタッパー山盛りのお手製漬物、手作りのお料理の数々がどんどんまわってきます。何でも全てがとっても美味でした。

戻りは表尾根から政次郎尾根を下ります。みなで写

たT村さんが下りになったとたん元気爆発！飛ぶように舞うように軽いステップでゴミを集め走り下っていきます。ふと気づくと道を大きく外れて中に分け入ってしまうのでK島さんやIさんに咎められることも・・・まるでやんちゃ坊主みたいです。

休憩ごとに回ってくる甘いもの、しょっぱいもの。ああこの会にいたら非常食は要らないな・・・なんてね。とりわけ私のツボにはまったのは「1本のキュウリをみなで一口ずつかじってまわす・・・しかも女子だけの特典・・・。冷静に想像してみてください。なんか面白くないですか？私は今思い出しても笑いがこみ上げてきます。なぜにキュウリ1本を。。。でも、瑞々しくてとても美味しかったです！皆で楽しくおしゃべりしながら尾根を下り、無事戸沢に帰着できました。ゴミも拾って美味しい物をたくさん頂けたクリーンハイクでした。私は初めての参加でしたが、こうして皆で楽しみながらゴミを集めて歩くと、山だけでなく自分の気持ちもスッキリ爽やかになるようで嬉しかったです。みなさまお疲れ様でした！有難うございました

2009/6/5 村上 早苗



p.s. おまけ

T村さんに捧げる歌

～君は薔薇より美しい～
走るほどに 踊るほどに
夢みながら 探しながら
ゴミを拾い集めたよ～
あああ～～君は～・・・
（タラタッタ タタタン！）
変わったあああ～～～～～

Byさな

川崎柴笛クラブ ヤビツ峠～二ノ塔コース(Ⅰ)

丹沢クリーンハイク感想

井上

お天気が危ぶまれましたが、今年は無事に行われました。

我川崎柴笛クラブの担当は、ヤビツ～二の塔の登山でした。富士見山荘前の駐車場から登山道に入ると、人が少ないこともあって、意外とゴミが見つかり易いと感じました。最近は登山者のゴミへの意識が高まって

いるせいか、大きいいかにもゴミというものは皆無で、包み紙や昔のプルタブなどが半分土に埋まっている感じが多かったです。ただ登山道からはずれた斜面などには所々大きいゴミが見受けられ、いったいどうやって捨てたのだろうか？なんて考えながら、歩いていました。こういった場所のゴミの処理には困ってしまったのは事実です。

たまにはゴミを探しながらのハイキングも良いかもと思った1日でした。少しは人の役にたてたことが実感できてとても嬉しかったです。



小田原ナーゲル山の会 鍋割山コース(E)

【メンバー】：中島、森谷、高橋、遠藤、小清水、阪野、中村、佐藤徹、八つ星、柳下、浅沼、佐藤美、平塚、山田、神野、鳥越、元会員(東里、遠藤洋)

【コース/タイム】

5/31(日) 天候・曇り～小雨

大倉(8:45)---県民の森分岐(9:45-9:55)---二股---鍋割山荘水場(10:40-10:55)---二股(11:10-11:30)
---大倉(13:00)



県連主催の「09丹沢クリーンハイク」に会の仲間、18名と参加してきました。小田急線に乗ると丹沢の山々は厚い雲に覆われていて今にも雨が降りそうな天候である。

渋沢駅で待ち合わせてタクシーや車で大倉に向かう。会場となった秦野ビジターセンターの前には各会の仲間が集まっている。受付でゴミ袋、軍手、バンダナが支給される。開会式はクリーンハイク実行委員会の役員の挨拶や注意事項等が話され8時45分頃我々も行動を開始した。



ナーゲルの担当コースは鍋割山コースである。二班に分けて出発だ。掘山下の集落を歩く。道標のある所を左折し西山林道に向かう。昔は無かった鹿柵の扉を開けて中に入る。やがて国定公園表示板を通過する。西山林道は前日の雨であちこちに水たまりが出来ていて除けながら二股に向かう。



1時間ほど歩き休憩をとる。心配した雨はまだ降っていないが、ヤマビルが靴に付いていて大騒ぎである。何年前か雨の時に西山林道を歩いていてヤマビルに取り憑かれたことを思い出した。

持参したヒルファイターを靴の回りにまき歩き出す。二股に到着すると県連の救助隊の役員が待機していて本部と鍋割山の山頂にいる救助隊の役員にナーゲルが通過した旨の無線連絡をしてくれた。

勘七沢を渡りゲートを通ると小丸尾根の登山口が出てくる。緩い坂道を歩きながら小さなゴミを拾いながら進む。後少しで鍋割山荘の水場に到着する所で大粒の雨が降り出してきた。カップを着る人、傘をさす人、スパッツをつける人で暫しの休憩となる。

本部に無線連絡をすると会の判断で引き返しても良いという連絡が入ったのでリーダーと相談して水場の所から引き返すことを決めた。最後まで行けなかったが久しぶりに多くの会員と話す機会が出来たことを喜び合いたいと思います。ヒルの被害も最小限ですみホッとしてます。



会員が集めた可燃ゴミが650グラム、不燃ゴミが8キロ650グラム。計9キロ程のゴミを集める事が出来ました。参加された会員の皆様、お疲れ様でした。次は会のクリーンハイクも宜しくお願いします。

相模アルパインクラブ 登山道整備

丹沢クリーンハイキング 堀 篤子

5月31(日)に丹沢クリーンハイキングを実施することができました。昨年は天候が悪く中止になってしまったので、前日までの空模具合では雨も降り実行できるのかかなり心配ものでしたが、実行委員の大橋さんから「明日はやります」との連絡を得て皆ヤビツ峠に集合とあいなりました。

こちら相模アルパインクラブは今年はヤビツ峠から岳ノ台、菩提峠間の登山道整備が担当となりなかには仕事内容をよく把握してゴム長靴のメンバーもちらほら、街中では??でも今日のこの場所ではなかなかカッコいいどういったものでした。TPOのなせる技と感心してしまいました。

さて蛭害予防にしっかりと殺虫剤を靴にかけさせていただき、神奈川パークレンジャー3名の方たちと私たちを3班に組み分けした後、スコップ、鋸、鉋、金槌、土嚢袋を分担して登山道にむかう。

レンジャーの羽生田さんのアドバイスを受けながら水掃けがよいように土を掘ったりしながら指定のポイントまで行きいよいよ本格的に補修工事にかかる。

登山道をいつもは何気に歩いているだけなので気がつかなかったが、一方向からだけでなくいろいろな方向から眺めて一番よい方法で修繕しなければよりよいものにならないということや、人間は自分が楽に歩けるほうへと足を運んでしまうので、なるべく登山道の幅を広げない、山の自然の破壊を最小限にとどめるためにも階段意外のところを歩かせないように枯れ木や枝でふさぐなど勉強させてもらった。

土嚢作りなどはうまれて初めての作業だったがこれまた土をとる場所など自然を傷めないようにしながら土をかき集めることの大変さ、丸太の階段をささえる棒杭を作る作業の労力、なにもかにもいい体験をさせてもらいました。これからはもっと心して山歩きをしなければならぬと肝に銘じました。

空も大崩ならず小雨がぱらつく程度でもちこたえてくれて土木作業には助かりました。いままではクリーンハイキングが多かったので今回ような登山道整備もかたちに現れてなかなかいいと当会で話にのぼっていました。

心配した蛭の吸血には23名の被害者がやはり出てしまったようですが、作業中はみなすっかり蛭のことを忘れてあまり会話にも出なかったようにおもいます。ただ、整備が終わってヤビツ峠に下りてようやく吸われているのに気づいたり、体についているのがわかったりしていました。極め付きは後日に実行委員の大橋さんが自宅に帰ってから蛭が体についていたのがわかったそうで気持ち悪いことこのうえなく、油断なりませんね。

ともあれ、2009年のクリーンハイクも大勢の参加者に支えられて無事終了しました、参加者の皆さん、また早くから準備をしてくださったスタッフの皆さん、大勢の皆さんに感謝を、またいつも楽しませてもらう



丹沢山塊にもありがとうございます。

地平線の会 / 山ブキの会 / 東京都連の仲間

クリーンハイクの目的は、丹沢の自然を楽しみ、観察し、「わたしたちは丹沢に何が出来るのか」を模索することだと考え、地平線の会と山ブキの会、東京都連の仲間は二日にわたって丹沢を歩いた。

水質検査(5/30) 一ノ沢水質検査

今回ははじめての検査となる。

採水理由は、一ノ沢は大倉高原の水源地にあたり、



大倉高原の水場が水質検査を始めて94年から毎年大腸菌群、大腸菌が検出されるため水源地およびツメの採水を決めた。また、この水源地は見晴茶屋の水源地でもあり、見晴茶屋のスタッフの協力をえて、水源地の場所、行き方について教えていただいたことを最初に

お礼を申し上げたい。

当初考えていたコースは見晴茶屋から水無堀山林道へ下りて、西山林道に向かって戻り、一ノ沢右俣に入り、水源地、ツメで採水し、駒止茶屋の手前で大倉尾根へ出る予定であったが、沢に入ってすぐ、ヒルに取り付かれてひるんだのと、涸沢と記録にあったが、前日の雨のためか気持ちよく水があり、沢の準備をして



こなかったため途中まで遡行して戻ってきた。再び、見晴茶屋まで戻り、小屋へと引かれたホースを確認しながら水源地へ。10分ほどで着いた。

水源地の採水を済ませて、ツメを目指すのですがすぐに涸れてしまって、元に戻って採水した。来年も引き続き担当したいと考えている。(磯部)

一ノ沢はヤマビルが集(たか)ってくる恐怖の沢でした。一ノ沢(ツメ)は登りすぎて少し下って採取したので濁っていましたが、一ノ沢(取水口)の色度が高いのが気になりました。源流部に崩壊箇所があって雨が降ると土砂が流れ出すということなのではないでしょうか? 磯部さんが言っていたように、壊れかけたドラム缶の取水装置をもう少しきれいにしないと、飲料水には使えないのかも知れません。

一ノ沢は万全のヒル対策をして、水無堀山林道から沢に入り、大倉尾根に抜けるのがいいような感じがしています。

以上、ヒルに脅かされて注意散漫気味の感想でした。(鈴木)

清掃山行(5/31) 丹沢山

見晴らしのベランダで朝に空気のさわやかさ。7時半に出発した。

大倉尾根は思い思いのスタイルで登ってくる愛好者の姿は悪くない。来週はボッカ駅伝、その下見の人、トレイルランの人たちの軽快な姿、よいなー。時たま、全力で全身汗をしたたらせて駆け上ってくるつわものもいる。脱水症状にならないかと心配してしまいますよ。

年配の女性がいいペースで登っていく。言葉をかけると生まれは昭和のはじめという。びっくり仰天していると、彼女はノンストップで塔ノ岳まで3時間で登るといふ。それも毎週。大倉尾根では知る人ぞ知るという存在とのこと。自分の心と体を確かめつつ登っておられるのだろうか、同じ女性として心に響いてくる。あの年令で私は歩いているだろうか。おっと、本日はクリーンハイクではないか。

霧の中に浮かびくる、ブナの巨木、辺りがピンクに染まるツツジ、ブナの立ち枯れの悲しい姿。1日丹沢はたくさんの姿を見せてくれた。

今の時期、まことに緑が美しい。バカ尾根などという大倉尾根も美しい装いである。山ツツジのオレンジやミツバツツジのピンクが混じるとまことに美しい。尾根を吹く風もさわやかである。カッコウが初夏を告げて鳴く。山に感謝しつつ登っていく。塔を通



見晴茶屋出発



堀山の家



塔ノ岳山頂手前



トウゴクミツバツジ



り過ぎるとそこは丹沢のふところの深さを見せ始める。自然に抱かれて歩いているようである。ブナの立ち枯れなど悲しい風景に出会うことになるが、自然は決してめげずに相変わらず四季の営みを続けていく。今回のテーマは「私たちは丹沢に何が出来るのか」という

尾根の立ち枯れ・竜ヶ馬場付近



ものであった。まずは、丹沢を歩いて自然との一体感を感じることであろうか。人間としての努力は人間の痕跡を最小限にとどめることであろうか。気持ちよく歩くために出来ること。

ゴミなど、もつての外である。各山小屋などは過去の埋蔵ゴミとともにある。丹沢山は100名山と立派な碑が立ってはいるが、みにくいゴミを露出させて放置されている。これは何とかしなければならない。

丹沢山山頂のゴミの山



丹沢山山頂



登山道の整備は道の保全と登山者の安全性の面からも大事であろう。大倉尾根、表尾根、大山は登山者が多いため、県の重点整備のルートになっている。塔から先は丹沢山まで歩いてもお粗末状況である。横木

の丸太が打ち込まれたボルトが飛び出している。丸太もハードル状態になっている箇所もあり、ところどころは立ち入れず、登山道を踏み外して歩かざるを得ない。幾筋もの登山道が並行していたり、クロスしたりしている。

丸木階段の鉄骨



この2点は私たちが問題にしたほうがよいと思った。ゴミの問題に関して付け加えると登山道のゴミは本当に少なくなっている。しかし、ヤブの中などには、最近すてたものもあることはある。人間は弱いものである。エゴイステックなものである。食べる前までは大事な食料である。食べてしまえばゴミ、汚いものと考え、自分の身から離そうとする。マナーは育つものであると考えると啓蒙的なクリーンハイクの意義はまだ失われていないように思う。のぼりを立てて、小旗を振り、行きあう登山者と言葉を交わし、たっぷり一日丹沢の自然を歩いて楽しむのは悪くはないのではないかと。20年以上もクリーンハイクを実施してきたものとしての考えてしてはお粗末なところもあるが、これが正直な感想である。

丸木階段



同行してくれた東京の仲間が神奈川の人には集中できる丹沢があるのは素晴らしいというようなことを言ってくれた。私たちも丹沢という身近な自然を持っていることを大いに幸せに思う。

もうひとつ、クリーンハイクは労山だけでなく、広く一般の人たちを含めて実施することが一番大事なことであろうとあらためて感じた。

文責：磯部津輝子 写真：鈴木澄雄

2009年クリーンハイクに参加して

山ブキの会 青柳百合子

山ブキの会からは、3人が参加しました。2人はスタッフとしてヤビツ峠で作業しました。

私は見晴小屋での前夜祭から参加して丹沢山コースに行ってきました。

私達の清掃区間は塔ノ岳から丹沢山までです。登山道から外れた所は投げ捨てられたものが多少あったものの登山道にはゴミが少なかったです。ただ、尊仏山荘の裏側や丹沢山頂の小屋近くにはビニールや缶、ビンのかげら等が土の中に埋まっています、小さな山が来ていました。

多少掘り起こして持ち帰ったものの時間が足りず、後ろ髪をひかれる思いで帰路につきました。(次ページ)

塔ノ岳～丹沢山までの登山道がとっても荒れていて、土が流され丸太が転がっていたり、丸太を支えていたボルトが頭を出して足にひっかかりそうで、危なかった所が多くありました。

山頂のゴミや登山道の悪路は県の方をお願いしたらいいのかしら。

又、竜ヶ馬場近くでは、ブナの立ち枯れが多く見られ、環境破壊がだいぶ進んでいる様でした。丹沢のブナがどうなるのでしょうか心配です。それでも霧のかかった風景は美しかったし楽しかったです。

私達は長いコースの為、時間内に大倉に着かず、救助隊やスタッフの皆さんには、ご迷惑をおかけしました。

川崎ハイキングクラブ

クリーンハイク大山下社女坂コース

岩佐

雨がパラツキそうなお天気の中、参道を通り下社へ向かう、一昨年は見なかったヒルが、早くも岩の上に出現一人が犠牲に！下社から上には不思議としない。これで安心してゴミ拾いが出来る、が、ゴミは少ないと思っていると自然保護関係の人に出会いココは1週間前に一度伊勢原市が清掃しているとのこと、次回はこのコースは外してもと参加者の意見あり。だが小屋跡の埋まったゴミや危険な斜面のゴミは相変わらずそのまま、行政が動き出したのならそのあたりもと思っ

てしまう。笹枯れも気になる、生い茂ってれば見えなかったゴミが目につく。オーバーユースも含めてクリーンハイクで色々なことを考えさせられた。

やま++と一般参加者



ヤビツ峠トイレ裏



ヤビツ峠のゴミ



横浜ハイキングクラブ

21年度クリーンハイク水質検査サンプル収集

平成21年5月31日丹沢クリーンハイクを明日に控え水質検査用サンプルの収集が実施された。当日は雨模様で時折パラパラと来そうでした。

YHCでは、塔ヶ岳の水場・大倉高原山の家の水場を担当してもらいました。このような機会でなければ行く事はないであろう。塔ヶ岳には何度も登ったが、少なくとも今までは行ったことはなかった。



塔ヶ岳の水場

この思いは皆さん同じで曇天にもかかわらず、3名のYHCのメンバーにも快く参加してもらいました。塔ヶ岳の水場は山頂から10分程下ったところに有ります。ここが良い。人があまり入っていない様で、その景色は一変する。塔ヶ岳 丹沢山へのルートよりも、そこには自然味あふれた丹沢の風景が有った。とても新鮮で感動に近い感覚であった。

こんな良いところの水場なら、さぞかし水質も良いのだろうと感じたのは私だけではないだろう。結果が楽しみである。

それに比較して大倉高原山の家の水場は、山の中の都会的な場所でした。20円水質維持管理費がかかる。今回は検査用サンプルの収集でしたので置いてはなかった。



大倉高原山の家の水場

この活動をすでに数十年続けて結果を公表して丹沢の健康状態を測定している。これからも続けて行くであ

ろう 検査に参加できて、嬉しく思います。

こんな気持ちで晩の見晴らし茶屋での前夜祭に参加しました。始めて会った人も山の仲間には旧来の友の様にお互い接し、改めて山に親しんで良かったと強く感じた。これからも「丹沢山」、私をよろしく願います。

横浜ハイキングクラブ 関根 記

水採取山行報告 2009.05.30

塔の岳チーム 関根、清水やす子、高橋さち子、飯島

正直、雨でも決行とのメールに有り得ないと思いました。

水を採取する現場に立ち会ってみて、その嚴重さに、すごく大切なことをしているのだと認識しました。

大倉尾根は2回下ったことは有りましたが、登るのは初めてでした。有意義な山行でした。

清水やす子 記

水質検査は、データが蓄積するほど資料の価値が高まると思います。そのような貴重な資料収集の一端をお手伝いできて光栄です。

それにしても、降水確率70%でも決行を決意した事務局の判断にはびっくりしました。それでも、雨が降らずにホントによかったです。

飯島俊樹 記

後沢乗越チーム 伊藤、堀口、宮原

コースタイム

大倉8:10 - 二俣9:20 - ミズヒ沢出合9:50 - ミズヒノ大滝10:10 - ミズヒ沢出合10:20 - 後沢出合上部10:30/10:54 - 大倉12:38

くもり空の渋沢駅に水採取チーム7名集合、バスにて大倉へ。大倉にて、塔の岳チームと、後沢乗越チームに分かれて出発。後沢乗り越しチームは、予定変更して西山林道を歩く。途中わずかな晴れ間の中を二俣、ミズヒノ大滝と進む。林道の左右の林は、枝打ち、間引きされた明るい林。いつからか林が明るくきれいに変わったようだ。

水採取を終えた後は、早めの昼食、でもあまりゆっくり食べるとヒルが来そうなので早めに大倉へと向かう。くもり空と、晴れ間の中を、楽しいハイキングができました。

宮原義明 記

ヒルは気持ち悪い。なぜ丹沢にヒルがいるのでしょうか。今回は特に、"ミズヒノ沢"の標識から滝に行くまでが。思い出したくない光景が。次に行くとしたら、ヒルのいないところへ。

堀口小夜子 記

3人のグループでした。リーダーと堀口さんは健脚でついていけるか心配でしたが、前日の雨が残る予報

で、はじめは林道歩きになりました。

雨は歩き始めるころは上がっていて、木々の緑は美しいものでした。

一番緊張したのは、沢を横切る時でした。普段なら何ともないのに大雨の後で増水して濡れた石や、手作りの橋が滑りそうで少し不安に――。

それでも、リーダーたちの助けで無事に渡ることができました。本当にお世話様でした。

伊藤美江子 記



水質調査・後沢乗越チーム

山ゆりの会 くぬぎ山コース

寄 クヌギ山 県民の森

天気：曇り時々雨 参加者14名

本日の主役は・・・ヒル！

5ヶ月ぶりの参加に、「生きてたの？」という温かい言葉で迎えてくれたメンバー諸氏。

クリーンハイクは軍手にバンダナ、そして「ヒル対策」です。靴下にストッキングを重ね、オリジナル・ブレンドの酢を降りかけ、後はひたすら遭遇しないよう祈るだけ？

新松田駅に降り立った時は真夏日を思わせる強い日差しだったのに、1時間程歩いたら雨が・・・。このところ毎年雨の中の作業だったので、久しぶりの好天とはしゃいでいたのもつかの間。「登頂を諦めるのも勇氣ある決断」ということで、くぬぎ山はパス！林道コースに変更です。ハイキングコースでないのに、何でこんな所にピン・カン・ペットボトルが大量に？？？という場面も。走行中の車から投げ捨てられたごみなのですね。回収のため、山男たちは急斜面を果敢に降りて行きます。山女たちは・・・適確なる指示を出す指令塔。かく言う私のゴミ袋はわずかなタバコの吸殻とアメの袋だけ。山男たちの戦利品を分けてもらい、「運び屋 その14」という端役を何とか演じた一日でした。町内会の清掃作業でも呆れてしまったけど、近頃「マナー」という言葉が無くなってしまったのか！と叫びたい。

さて、戦々恐々としていたヒルですが、途中何度か「いたあ！」「ぎゃー！」と悲鳴が・・・そしてヒルの撮影会が行われていました。次回更新の「山ゆり」HPは、グラビアアイドル顔負けの「ヒル」満載特集？

でも、残念ながらヒルに献血した人はいなかったようでして。日赤の献血ルームじゃないからクッキーもドーナツも貰えないしね。そうそう、私もゴールした広場でやれやれとストッキングを脱ごうとした時、潜んでいたヒルを発見！哀れそのヒルは塩の代わりに七味をまぶされ、火あぶりの刑にされたようです。あっ！

家までヒルを連れて帰った人もいるとか。

渋沢駅での解散宣言後、M嬢の誕生日会で飲んだビールと大山豆腐・山菜の天ぷらなどなど、美味しいおまけ付きのクリーンハイクでした。（加藤 英子）

5月31日(日)晴れ、気温22度。起点/寄(やどりぎ)、集約地/大倉。朝5時半に家を出、集合地小田急新松田に7時半に着くと、いつも朝早い手塚さんが先に来ていた。参加者は14人になり、寄行き中型バスは山ゆりでほぼいっぱいになった。クリーンハイクで山ゆりが年毎に見てきたこの地域は、道ばたも大体きれいになっていた。それでも路肩から落ち込んだ斜面を覗くと、最近の、或は見落としていたゴミもある。今回は大きなものでは何かの鉄パイプの部分が棄ててあって、これを集積場まで運んだ。総量28キロだった。

午後早めの解散後、渋沢駅前での一杯は格別だった。
(館山 茂)

クリーンハイクの現状は

恒例になった様(くぬぎ)山のクリーンハイク。去年は雨のため不参加でしたが、今日も昼からは雨が心配されている。こんな天気でも新松田駅前のバス停は、登山客で賑わっていた。

最近のクリーンハイクでは登山道には殆んどゴミは落ちてなくて、集められたゴミの大半は林道沿いの斜面に車から捨てられた缶やビン、林業や林道作業者の廃棄物等なのだ。だからゴミの回収は、ガードレールを越えて斜面を下りながら拾い集め、重い袋を持って斜面を又上がってくるということになり、注意が必要だ。榛山以外の地区でも大体同じ様な状況なのでは？

更に、数年前からはゴミの発見よりも、登山道に居る山ヒルの被害に遭わないようにすることの方に神経を使わざるを得ない状況で、クリーンハイクに積極的に参加する気持ちが薄らいでいる。今回もそうだった。榛山に向かう途中の林道付近で雨が降り出したので、登山道で頂上に向かうのを変更し、林道の中央を注意深く歩いて集結地の大倉に向かって下ったのに、何人



ものメンバーの着衣にはヒルが食らい付いていた。

山のゴミだけでなく、ヒルの撲滅、発生防止の対策も急がなければならないと痛感している。

(松田 雄二)

「今年も又」毎年、恒例のクリーンハイク。空模様が気になりながら「寄」へ。下車後、ヒル対策に万全の人もいれば、参加賞の黄色のバンダナを頭にほっかむりの変なおじさんも...途中から雨も降り出し、昨年同様クヌギ山山頂はあきらめ、ゴミを拾いながらの林道歩き。道端にはそれ程ゴミはなかったのですが、昨年同様、ガードレール下谷側には空き缶、等々明らかに投げ捨てられたゴミ。途中「ヒル」に好かれて、ご同行された方もいましたが、ゴミ集積場所の大倉へ。

来年もクリーンハイク参加したいと思います！

(稲本なお子)

またこの季節が来ました。この2年は朝から雨でしたが今年は太陽も見ることができました。14名の参加です。コースも昨年同様寄(やどりぎ)からのクヌギ山ですが車道に出るとまとまった雨が降り出してきたので山頂はあきらめ車道を下りました。

今年もそうですが登山道にはゴミはほとんどありません。目に入るのは道路脇の谷間に多種にわたるゴミが捨ててあるんです。

今年には缶や瓶に工事の人が捨てたとしか思えないビニール袋や大きな缶と鉄の線などがありました。皆で手分けをして大倉まで運びますが、この距離はなかなか手ごわく、初めは軽く感じていた缶なども1時間を過

ぎると、体に応えてきます。また大倉に近づいてきたところに目に飛び込んで来たのが、なんと大接間で使っていたであろう椅子が2脚が捨ててあり、なんとも寂しい気持ちです。そんなことが有ってもやはりやめずに続ける事が大事なことかな、と思います。元気な体でないとも出来ません。明るく楽しく、健康第一、と、改めて思います。

今年はキイチゴの時期が過ぎていたのが残念でした。

(和田 悦子)

林道歩きとなった雨のクリーンハイク、林道に業者が残っていた資材ゴミを片付けるのはクリーンハイクの本来の趣旨からはちょっと問題ありと思うが、見つけたゴミはほっておけない。28.3キロ、間違いなくそのぶんきれいになった。ヤマビルにもさほど驚かなくなりました。

・ヤマビルも酒のさかなや生ビール 【K】



登山道整備



登山道整備に向かう皆さん



登山道整備を終えた皆さん



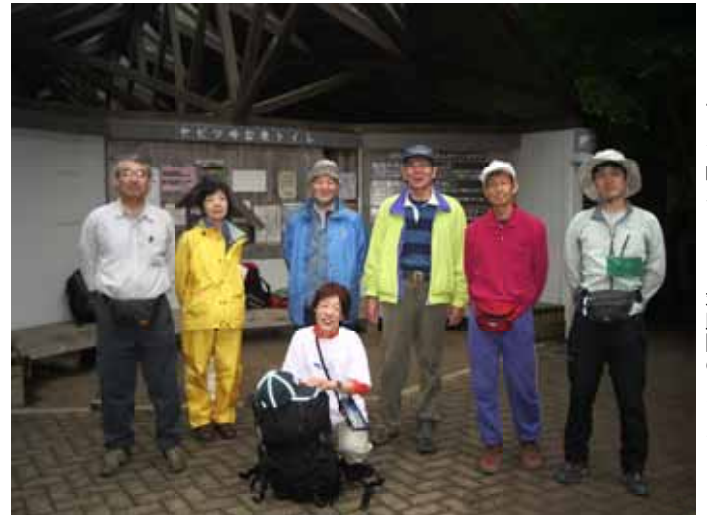
登山道整備



登山道整備に向かう皆さん



登山道整備に向かう皆さん



ヤビツ峠スタッフ・救助隊の皆さん



登山道整備

2009クリーンハイク参 者

実行委員

高橋・萩原・渡辺(藤沢) 磯部(地平線) 三上・小町(こぶし) 砂原(柴笛) 大用・吉岡・吉田(川崎HC) 森谷(ナーゲル) 遅沢(川崎労山) 柴田(やま++) 大日方・渡辺(AC横浜) 宮原・関根(横浜HC) 橋本(カモの会) 金森・千葉(みずなら) 北野(緑星) 青柳(山ブキ) 樋浦(雪童) 田村(相模)

県連委員

渡辺 後藤 中山

救助隊

海輪、田村、宮澤、熊谷、湊 樺島、鳥越、増田、末吉、入木田、小林、町田、阿部

一般参加者

神奈川大学ワンダーフォーゲル部

南、渡辺、荒井、伊藤、

関東学院ワンダーフォーゲル

一之瀬、渡辺、古山、松尾、

みどりの山の会

増田、小谷、

山ゆりの会

14名

(個人の部) 青木、高橋、井村、藤野、小川、井上、

小野、増田

川崎勤労者山岳会(12名)(会員外1名)

遅沢、吉村、佐藤、望月、田中、小池、長崎、内川、森、森(子ども)、佐藤、済川、橋本、

川崎ハイキングクラブ(29名)(会員外2名)

岩佐、山本、清水、小林、寒河江、吉野、鶴見、岩崎、池村、岩崎(会員外)、藤野(会員外)、八島、二瓶、小林、宮地、新島、菊池、大原、川上、佐藤、吉岡、神保、渡辺、川上、坂本、伊東、斉木、矢崎、関口、平田、中山、

川崎柴笛クラブ(6名)

佐藤、雪竹、杉尾、後藤、井上、松本、

アルパインクラブ横浜(17名)(会員外7名)

市川、内藤、杉山、佐々木、神谷、大江、大江、大江(子ども)、小野、鍋野、鍋野(子ども)、鍋野(子ども)、古屋、古屋(子ども)、杉浦、石川、福丸、小山田、中田、沢田、古谷(家族友人)3名、渡辺、

横浜ハイキングクラブ

丸尾、関口、清田、中尾、清水、杉山、桜庭、山崎、長井、小島、鈴木、西川、高杉、溝呂木、安田、田辺、

池田、畑、柘植野、関根、池上、深瀬、助川、橋本、藤原、峯崎、十津川、川西、白鳥、香月、澤

横浜こぶしの会(7名)

上野、前田、渡辺、渡部、南雲、政田、田辺、

藤沢山の会(30名)

角田、西口、橋本、新井、清水、木村、阿部、中村、中村、坂井、渡辺、平山、藤富、加藤、福土、内田、佐々木、竹内、川村、川村、高木、太田、高居、安藤、池田、野口、角田、高部、西口、丸山、植田、

小田原ナーゲル山の会

中島、森谷、高橋、遠藤、小清水、阪野、中村、佐藤徹、八つ星、柳下、浅沼、佐藤美、平塚、山田、神野、鳥越、元会員(東里、遠藤洋)

相模アルパインクラブ(15名)

大橋、蝦名、守下、堀、渡辺、大島、香取、井藤、若澤、石井、大沢、水村、古館、上夷、長谷川、

こだまの会

樺島

みずなら山の会(17名)

千葉、平林、末吉、関、森、五十嵐、植木、加賀谷、安江、川島、須山、田村、野呂、藤本、松浦、横手、村上、

緑星スキーと山の会(6名)(一般2名)

岡田、佐々木、高橋、中村、福田、北野、大房(一般)、大房(一般)

こまくさハイキングクラブ

遠藤、青井、ほか2名

カモの会

志村、中村、武田、浅原、加藤、栗原、井戸、樋田、永井、

雪童山の会(6名)

樋浦、岡崎、東海林、東海林、東海林

地平線の会

鈴木、磯部、内田、山下(わたすげ)、上野(むらやま山の会)

やま++(6名)

柴田、中田、紙戸、池田、中村、栗田、

山ブキの会

青柳、早坂(スタッフ)、宮坂(スタッフ)

山岳素行童人メーグリ家

後藤

記載漏れがありましたらごめんなさい。

労山自然保護憲章

登山は、自然と関わりが深い「スポーツ・レクリエーション」であり、豊かで多様な自然の中で発展してきました。山岳自然は人為に対して極めてぜい弱であり、一度破壊されると容易に復元しない特性があります。ところが近年、山岳自然の荒廃がめだち、登山文化がそこなわれる状況が生まれています。

日本勤労者山岳連盟(労山)は創立(1960年)以来、登山者の使命として自然保護問題に正面から取り組み、

各地で自然を破壊し登山を阻害する開発に反対してきました。また、「山からゴミを一掃しよう」と取り組んだクリーンハイク運動は、登山者のモラルを高め、世論を動かし、山のゴミは著しく少なくなってきました。

かつて山岳自然保護の主な課題は乱開発から自然を守ることにありました。しかし、今やオーバーユース等の利用者自身による問題や、地球温暖化、酸性雨・霧など地域・国境を越えた地球規模の環境問題も重視されるようになり、自然を汚染・破壊する原因は多様・複雑になってきました。

<p>そこで私たちは、登山文化の継承発展と、山岳自然と登山者との新しい共存をめざし、ここに「労山自然保護憲章」を定めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 登山活動を通して、自然を見る目をやしない、自然の変化をとらえ、山と地球規模の環境保全に寄与します。 2 山を汚さず、山をいためず、傷つけた山を復元する努力は登山者の務めです。 環境への影響を最小限にするため、「自然を傷つけない登山技術」を求め普及していきます。 3 多数が同時に行動する集団登山は自然への負担が大きいため、自然を傷つけないように創意工夫して取り組みます。 4 山岳での開発動向に関心を持ち、利便性にかたよることなく、事実にもとづいた判断で自然がそこなわれないよう努めます。 5 クリーンハイク運動に参加し、登山者のモラルを 	<p>高め、山からゴミを一掃します。そこでつちかった力で、さらに多面的な自然保護活動を広げていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 山を汚染しない排泄物の処理方法や自然環境に配慮した山小屋やトイレを考え、山域にふさわしい対策の実現をめざします。 7 自分の好きな山「心のふるさとの山」を持ち、山の自然を学び、地域との交流や山麓の文化に触れるなど、自らの登山スタイルをめざします。 8 登山道、山小屋など施設整備は、自然への負担を最小限にとどめることが大切です。それらの設置・運営にあたっては、国や自治体、住民や所有者、登山者の合意形成を求めています。 9 住民や利用者の声を無視した「入山規制」、「入山料」ではなく、その声を生かした自然の保全管理を進めるよう国や自治体、所有者に求めています。 <p style="text-align: right;">2006年2月19日 日本勤労者山岳連盟</p>
---	--

神奈川県勤労者山岳連盟加盟団体

	団体名	ホームページ・問い合わせ先	
1	川崎勤労者山岳会	http://kawasaki.rousan.hp.infoseek.co.jp/	問合せ先 = ホームページ参照
2	川崎ハイキングクラブ	http://homepage2.nifty.com/kawasaki_hc/	問合せ先 = ホームページ参照
3	川崎柴笛クラブ	http://www.shibabue.com/page/page-1.htm	問合せ先 = ホームページ参照
4	アルパインクラブ横浜	http://acy.jpn.org/	問合せ先 = ホームページ参照
5	横浜ハイキングクラブ	http://yokohamahc.web.infoseek.co.jp/index.html	問合せ先 = ホームページ参照
6	横浜こぶしの会	http://kobu-shi.sakura.ne.jp/	問合せ先 = ホームページ参照
7	藤沢山の会	http://outdoor.geocities.jp/akio_saito21/	問合せ先 = ホームページ参照
8	小田原ナーゲル山の会	http://nagel.jp/	問合せ先 = ホームページ参照
9	相模アルパインクラブ	http://sagamiac.sakura.ne.jp/	問合せ先 = ホームページ参照
10	こだまの会		問合せ先 = 県連ホームページ参照
11	みずなら山の会	http://makiyamaenchi.web.infoseek.co.jp/	問合せ先 = ホームページ参照
12	緑星スキー山の会		問合せ先 = 県連ホームページ参照
13	さがみ山友会	http://www.geocities.jp/sagami_sanyukai/	問合せ先 = ホームページ参照
14	こまくさHC		問合せ先 = 県連ホームページ参照
15	カモの会	http://www.kamonokai.com/	問合せ先 = ホームページ参照
16	白嶺岳和会		問合せ先 = 県連ホームページ参照
17	雪童山の会	http://www5e.biglobe.ne.jp/~yama/	問合せ先 = ホームページ参照
18	地平線の会	http://www.geocities.jp/tiheisen2004/	問合せ先 = ホームページ参照
19	やま++	http://yamaplpla.hustle.ne.jp/xoops/	問合せ先 = ホームページ参照
20	山ブキの会	自然を愛し仲間と楽しむ。入会条件無し。	問合せ先 = 県連事務局へ
21	山岳素行童人メーグリ家	フリー、沢、アルパインクライミング等	問合せ先 = 県連事務局へ

神奈川県勤労者山岳連盟 / 事務局

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3F
 tel & fax 045-434-2726
 JR東神奈川から徒歩5分・東急東白楽3分・京急仲木戸7分
<http://www.k-rouzan.net/>

丹沢クリーンハイク2009報告集
 2009年9月28日発行(400部)
 神奈川県勤労者山岳連盟 自然保護委員会
 クリーンハイク実行委員長 高橋勇三